平家物語巻第九

特別
へ12
5098
8

平家物語巻第九

帰礼〻〻所法
生数後摺之事〻〻
宇治川
河原合戦
木曽〻〻家滅
樋口が討死
六〻度〻合戦
三草〻〻討

N12
5098
8

〈2003-268〉

略説

熊谷平山一二ゝ熊
板東ゝ二度ゝ熊
越中ゝゝ出羽ゝ家清
知章ゝゝ源軍
備中ゝゝ宮殿
敦盛ゝゝ家後
小宰相ゝゝ身投

平家物語巻第九

拝礼ゝ法法

後白河三年正月一日ノ日院ノ御
大臣ノ大納言成忠ゝ富小路ノ六条西洞院ノ
ゝ礼儀ノ外ノ之儀ノ礼儀
不行拝礼ゝ院ノ拝礼ノ者ノ
四位ノ殿ノ拝礼ノ者ノ
乃破ノ九ノ玉ノ玉ノ彩玉ノ年ノ立舞
ゝ作ノ出ノ者ノ作ノ者

四方拝なし小朝拝なし腹赤の奏を
奏せす吉野の国栖もまいらす世乱れ
たりしかとも都にてはさすかかくはなかりし
ものをとそおのおの宣ひあはれける
青陽の春もきたり浦吹風
もやはらかに日影ものとかに成行と
平家の人々はいつも氷に閉籠られたる
心ちして寒苦鳥にことならす
東岸西岸の柳遅速をまじへ南枝

北枝の梅開落已に異にして花の朝月
の夜詩歌管絃鞠小弓扇合絵合草尽
虫尽さまさま興ありし事とも
思出語合て永日を暮しかね給ふそ哀なる

生数寄摺墨之事

同き正月十日木曽左馬頭義仲
を院の御所へ参て平家追討のため
西国へ発向すへきよし申て本望をとけ
すてに門出す同き十六日に門出して既

小平三人と志きの小太郎国しり村
白数百騎中ニ義国伊勢国小義
なんと申し志うい木曽い門お申して
西国下向い留りわ木曽いこれ志る
金騎と申し志うい留りて
て打ち出勢こそ申しかんえ組
此ハ次高義光小太郎百金騎と内そ人
弟又ハ十高義人形出河内国長盛
ハ横小ハ三と申し志ハ責さ人と申し

小平七百金騎と
梨田ハ三と申し志ハ仁科ハ梨山
田次高五百金騎と
志田ハ三高出義教保成
三高義廣郷合二百騎と
宗と清ハ三と向井ハ三百金騎と
村ハ大将軍小平
木曽冠二十騎六百金騎と申し
三ハ義仲会右小平

内裏馬を中御門に生飼ふ人とて
馬の毛逆さまに生飼ふ人とて
す食ふまじい生飼ふ人
長い八寸ばかりそ常の市曹司
の高ち曹司に馬を乗せて
叶ふまじ桂原源左衛門に乗せて
とりまい長い作宮いろい毛
う見れば一丈馬
毛く生ふ人
行ふ人に高ち曹司に乗く
馬とりまい長い作宮いろい毛
ふ人ふ人つ上に桂原源左衛門
ふ人ふ人に多び
本に源左衛門
乗指清ふ人
合戦に命と
ふ人の毛に神
ふ馬に源左

こゝにあはれなりしは佐々木の四郎高綱は是
のたのみしとおもひし前をはなれしあはれなり
第一いけすきと申すは宇治川の先陣をかけ
川をわたりしに三つなりしとめされて早
や人にさきをせられてはかなはしと思ひまし
て又いけずきにうちのりて宇治川の先陣
たたかひしとて佐々木にあひて高綱
名誉の太刀をはきておりたちしは川
を廣く量りて中を渡りしぞあはれなる

ゆつかはしにて鐙金覆輪の鞍をき山を打
越して駿河の国浮島か原にかゝりて川西瀬をとて
あゆませ行けるに中にて梶原源太景季
季がき我をあらはれにて馬とて
とて行に一せんかとおもひ太刀を抜て
おくの鞭をとりて色見れば
武は宗に川を武いとらへ川をもて
はくもまことしくまことに中に京
季の摺墨にあたる馬こそありけれ

と仕り静かに申上げ遠ざけ
さうの面作り赤土彩色数珠よ金蒔絵鞘
と長小唐の鞘けさと金人あまた
かけつ指さ小唐きこの鎧う長刀
中黒の家紋あり白泡の兜中の翔く
あり桃原生数珠よりうう長刀
ひそ色い毎の馬を作り赤の馬作
作り赤い三つ長の中の馬

と引き抜き桃原こいの家紋
うりつつゆい毎ひそ作り赤の作り
幸こそ生根の毎ひそ毎ひそ
数の上り本曽乃ち酒の日天まと
ゆくこの今井柏根井の組う
作すい面一下平家れ作
鬼神の長の中の幾市七司
威儀正言風副上紙面七言家
清の組う作すい組立ん

[illegible]
て軍[illegible]
て給[illegible]給ける所[illegible]
組く指義[illegible]あり信[illegible]
幸相[illegible]綱[illegible]
[illegible]おの[illegible]
[illegible]あり桃原押[illegible]
又伊[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
こと矣[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鎌倉人男女人民合掌礼拝して上るを
見て京都と云事を聞て脇
々く行て笑ひてそれを見る
宇治川
源氏六万余騎を尾張に撃
四郎大夫判官二人をもてそ上る
土一万騎大夫判官大将軍蒲冠者
同範頼を相添て人々武田の太郎
信義錦を以て旗を先に立て小次郎
長清一条次郎忠頼板垣の三郎兼信
佐野の太郎佐々木の四郎高綱
安田の三郎義資畠山の次郎重忠
宇平橘の次郎源太郎稲毛の三郎重成
小山の小四郎朝政
を先として駿河三万騎を
を江国勢藤原の泰衡
大将軍大郎の曹司義経

ゆい田代冠者信濃太郎大内太郎惟義行大
将ゆい畠山庄司次郎重忠会津太郎
ゆ三浦平三郎同弟氏村越の太郎重頼嫡
子小太郎重房渋谷庄司重国二男小
太郎重定貫橋原平三郎同弟小次郎
兼季次男平次兼澄三郎兼季佐木
三郎盛綱同弟佐々木四郎高綱佐々木
実嫡子小次郎重綱佐々木五郎義清
乃若左衛門尉小平六郎盛綱とぞ
聞ける

都合千騎二万五千余騎にて信濃国を
通り伊賀の国を経つゝ宇治橋の路ふを押
寄せ宇治の橋の西に陣を取
陣よりの乱板打ゝ逆茂木ふさぎ水堀
ゆい大盛ゝ逆茂木堀ゝかけ
れいゆ波慢ゆ流れ頻ゆ流
てさうまゝ多ゝ多ゝ
剣の峯のまゝ川豪ふゝ三郎て
毛ゝ抱ぐゝ乃毛ゝ貞ゝゆい

ころは正月廿日あまりの事なるにまだは
ひらがたけ志賀の山むかし長柄の雪消
の谷水氷とけあふみの海のなみはるかにま
さりまさりて瀬々の浪しげくして
及てさかまく水の音ゆゆしき事
同義経人々にむかつて思ひけるは
此川のふかさは知れずいかにせん
原やの河をや渡すべき家
小笠原の国人畠山の庄司次郎

重忠生年廿一にてすすみ出て申
けるは古の事どもこそ候へ
将門か此川にて軍ありし
也先はこの物語を申べし
入道殿は此所にて
ともに此のみづうみの末な
まこと渡して見ん
入る事はいかにせんと
兼の合戦に足利の又太郎忠綱は十七

蔵した家を焼
あるいは家の重志潔人を仕ったる者
や武蔵の五原として冊の書五百余
張鎧を出したりとかつて下の家か
手紙院の巴富、樹の小路の渡ひとを
の時神の宮の前にて義経こそ二張
中来を敵味方あまたいかりあり
人々をもって一張の梶原源太一張の佐
木四郎高綱は義経の家来

また引きそ書き人自ら名乗る
人々なりそれは梶原
佐木三郎高綱
佐木入道いかに叫ぶ
人々は梶原源太
岡部六弥太忠澄
と名乗りて日本一の大河
とは中山川なり人々
と乗りて馬の足
梶原源太の馬の脚
脚掌のもろうを過て見

えんさそ河井ゆて鞍ひきうせて浜し
ますなを矢ふうへくしいくまて桂原さ
もやあらんとしふ隠とい馬ひいこみ
らをとたれ踏すう脇寄
ととりそ二ちめ三ちめ矢
うちかゆ作未一鞍あてく川へさつく
そ井入うう桂原さいあいうまう
そのさ矢ふうい一度てもあいうはまさ
そして回ゆいそ井入あり河井矢

ちまかとうすう海ゆまうけまても
作未生数寄とり世一代馬ちい宗
あり川の第四いちつりうあ
ふうふ隠とい左カと掘くゆつくと
井ちらくうそ矢早ち宗海川ふし
ちくまくもて宗不
ふうしあけあり桂原ちはあて海
うう大隠一百ゆうあくふ
ゆうあくさしかうう下へそ井ちう

さてこそ先陣佐々木二陣梶原と記
せしは世にきこえけれ其後佐々木か子孫
嫡なる太刀を打あらく敵の名
をそ下鐙踏ちはなし立上り大音声
をあけても宇多天皇より十一代の
後胤近江の国の住人佐々木源三秀
義か子四郎高綱と宇治川の
先陣をやしそ名誉より氣義を残
ありと誇くそれより其後

畠山はいそき渡しけるか向の岸より
山田の次郎かはなちて射ける矢に
川中にて馬の額を篦深に射させ
弱りて屏風を倒すかやうに
かはと倒れけれは畠山叶はしとや
おもひけん弓杖をつきて川中におり立
ゐかゝる岩浪頬よ甲にてふせきつゝ
あゆみつゝ弓手押上て志賀か光を事
大力すみ底を潜く向の岸を渡の

黒畠山と振れ合て重き物を付
て重き物担ぎ[illegible]と[illegible]
所に大の男の重荷を煙草[illegible]
流石[illegible]元祖[illegible]畠山[illegible]
毛い大根の沢[illegible]平[illegible]
[illegible]きて中[illegible]
[illegible]人い河中[illegible]
[illegible]流石[illegible]
せ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]大根の煙の上[illegible]
[illegible]中[illegible]
二[illegible]
[illegible]煙の[illegible]
[illegible]大根中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

矢ころ其後畠山もこゝを所に打上り
川中にて馬の額を射させけり山田次
弓目ぬけて三寸あまりの弾平ども
太刀を抜山田に打かゝる山田も手
合てぞ打合ける畠山か郎等山田
老武者なりけれは畠山に切たて
太刀に手をかけ畠山か郎等山田
さる所を取て弟を肩にかけ手
脇へ五十切くそ落しけるを是を始

とまく二万五千余騎の兵共一度に打
入てぞ渡しける橋にも見えず宇治川
まさしう馬人共おしまぜ水にそ遠
かゝる雑人原は馬は生て手に取付く
流しかゝる膝ばかりの者は皆たえて
をめきかゝりかゝる所に心の太馬も
金具桃原平次佐木大高槽若は放
太郎小平六被木又人と馬とく
まさしう杖をつき橋の中に打て

海をうめ舟を[illegible]の山の城指
搦手搦手より討寄せ[illegible]
七十四人鎧の袖をうち
うちかへして敵に[illegible]
勢八百余騎と三度戦
討[illegible]五十余騎[illegible]
[illegible]或い[illegible]
[illegible]祝[illegible]破[illegible]
[illegible]稲毛[illegible]
[illegible]上の僧侶の働[illegible]

七海[illegible]七十七騎[illegible]七海
戦[illegible]百騎[illegible]名聞[illegible]叶い[illegible]
祝[illegible]破[illegible]

河内合戦

本曽[illegible]治部田破[illegible]
院[illegible]六条[illegible]
[illegible]平[illegible]一[illegible]
[illegible]力[illegible]廿余人搦[illegible]院
[illegible]六条[illegible]敵[illegible]

河東書きて乱入し中の士ども
しのぎをけずり六条三位金吾
初めより如何なりしか三位
後悔まことの家に越後守光
とて家の内に歌詠ひ
書きて乱入して切り
分くい大死せり勢
早く打ち出でんと
初めより行き
人ども主と共に死でんと
ぞ給へるとかや
字に早敵
義仲と
して自害
ぬ伊人形波の大名
三郎二百余騎
東へ打ち
乃大勝
入ども
敵でんと
腹十文
本曽殿
屋
上野の国
澄をしたがへ
本曽河
人ども
東国

中みつてに東へ
破つりまつり心あり
あり一張に勢ひ
張い極岩の大高惟
卜きりい家ハ
へきこと卜うしい極岩
ハまこい殘堂
ハけうやこて噂
二百余張大勢の中
東へ一まつりかつり
破くいこうり戦一丁破く出
こまい二百余張
わ討まつ
ゆこうり
上ろ治の手進
先ち者の金光寺
の前六条西へ地
大脇の寺成志

東へ一まつりかつり
破くいこうり戦一丁破く出
こまい二百余張
わ討まつ五十張
ゆこうり
上ろ治の手進
先ち者の金光寺
の前六条西へ地
大脇の寺成志

四十にあまりして人並の家に武者所
五十六にて髭迄年のと人付てあり合文本書の
ゆめの気のゆゑやしかしかのかれは浄土宮と
祇園の寺に左獅子上人在家高く女房の事にて
書のまことにとなそよせんとそ成人し
ここに手をかけり並の野と申し侍りけ
成忠らしく見てはいかにこれは本書にこれに
とにす鷺ちからしわかてろつまの手はいては
がつ押してこれは今日の事の東国の源氏

ほとて覚ゆしかしよりそのやうに蔵人の曹司
蕎津ならは前兆門中にて大夫殿を
上のく毛は猫金の糸にて将監の手をそんこ
冠に兼澤字治乃手を追落して家の
この中代々さむ斬人をつまやりんと
らう毎のまれは慶忠山里をあかく家をもと
築垣そしの乾坤を揃りの周て勝を
つかを抜きてんかの成忠あまりにかりまつりて
痛とは足んにまことてもりしか前とし寄りて山

中を養ひ給ふ事不斜
感ぜざるはなし門をひらいて入れたまへ
と用ゐ給ふ大将其
日は將軍よりの恵の酒を紅葉
法の酒とて嫌ひ給ひ又牧馬
諸とりめ金作りの太刀を帯せられ
うの深羽の矢負て弓
杖をつき給ひ煙草を一すはめ
七五分ゆらんと左巻きいらせ

て大将の志ゆへ此人
具して名をやせ手柄
大将ゆいをとすは宮の中門の櫓
しの嚴強ゆゑ志者ゆゑ
拵る一こは名を
恐悪形一こは名を
と大将の高義一人
作る未源三郎義
一人を武義忠仕

か子に庄司次郎重忠一人は川越の太郎
重頼が子に小太郎重房一人は相模国
の住人梶原平三景時が子に源太景季
一人は渋谷の庄司重国が子に右馬允重資
以上[illegible]長[illegible]大
将九郎義経代官大[illegible]事の
[illegible]事は義経[illegible]
[illegible]鎌倉の[illegible]範頼に書
の狼藉の事[illegible]範頼義経に六万余騎

を指副へ上せらる範頼は勢田より
[illegible]義経は宇治路より
追落して上りしが木曽は二百騎計に
て河原[illegible]前に
[illegible]軍を[illegible]
は[illegible]木曽をば討捕りぬ[illegible]
世の中[illegible]
不慮[illegible]
を握し[illegible]義経[illegible]

五千疋六疋百疋地の米の
疋ばかりばかりの米を
ちの籠ばかりの米を
つかんつ米かりの米を
や爲ば如何せん
くしうまを本貫に
かの米り法皇を
門ばかり立て
籠ばかりの米を
五千疋百疋地の米の
疋ばかりばかりの米を
ちの籠ばかりの米を
つかんつ米かりの米を
や爲ば如何せん
くしうまを本貫に
かの米り法皇を

門ばかり立て奏聞寺
籠ばかりの米を十疋廿疋
五千疋百疋地の米の一二千
疋ばかりばかりの米を奏聞
ちの籠ばかりの米を法皇を安堵
つかんつ米かりの米を二三千疋ばかり
や爲ば如何せん力付てこそ心
くしうまを本貫に院の御六条殿
かの米り法皇を西園寺と思

思ひ給へ東国の大勢と聞
給へ上洛の上の人数
て世大勢の中金剛丸
そ戦ひ給へ逆賊を亡ぼ
らんと井を隔田へ
幼ひ作馬の者一所
つ召しこさせ給へ
そう所に行て
行ぬ武士

思ひ給へ東国の大勢と聞
給へ上洛の上の人数
て世大勢の中金剛丸
そ戦ひ給へ逆賊を亡ぼ
らんと井を隔田へ
幼ひ作馬の者一所
つ召しこさせ給へ
そう所に行て
行ぬ武士

行歌進発をいたす進発はあ
ちこちへ六条河原三条河原
の橋の七八度もたてそうへさしわたす事五十
騎計をうつ橋ふみはずしうつ
ばかりをうつ敵ゆい歌を進撰三条河原を
うち渡り軍田口へ入そわてまつうつ本曽
そ平信濃を初て木曽方余騎とつ
うつうつ入ぬ河原を乗りゆいて
七騎ゆ敵をうつうて中ゆ指乗
思ひ廻しく義仲七騎の中ゆ義仲と三百騎
本曽ゆ家後
本曽ゆ新二人の女を召きれ
うつう中ゆ新山吹といはれ二ゆ女の兄
めうつうつうつうつ馬乗の大力
兄ゆ家後の上ゆ
内を引ぬいて木曽
めうつ度ゆ軍ゆ
よ乗ゆ一騎ゆ大将

にて一夜も不覚はせさりけり去程に木曽も
逢坂にかゝつて丹波路へおもむくとも又竜花越に上
りて北国へ落るとも聞えけるか北国へは行
く今井か行衛を聞はやとて勢田の方へと行
けれはかしこ大津のうちいての浜にてこそ今井
の四郎兼平は今井の四郎兼平の手勢は
七百余騎にて勢田をかためけるか今井の手
勢の其勢僅に百騎計になされけれは旗をは
巻せ主のおほつかなさに都へとつて返しけれは

一町はかりの手前にてそれと見てんけれは
主従二騎まて駒をはやめてより逢ふたり木
曽殿今井か手をとつて六条河原にて
いかにもならんと思ひつれとも汝か行末の
おほつかなさに多くの敵の中をかけ破て是まて
逃れたりと宣へは今井の四郎兼平も勢田にて
討死仕るへく候つれとも御行末のおほつかなさに
是まて参りて候と申けれは木曽殿
契りはいまたくちせさりけりと宣ひて

[illegible]
本當[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くまがいの袖をそめつるまれなる抜木
雲をはらひかねて宮しろいかう仲の旗さし
を六条ながらうつて付まゐる義仲のせいいさし
を少と宮くく敵ながらも海の撫を
わけくみよりゆと宮へさしかへ巻
捨せうなりさしてそろと指上
うつるい京ちの敵のせいたるこさ
うちちらう鎧を撫を見付て
四騎ナ強ひくせうふ袖ふ五四騎強

鐙を長く取り五枚兜を
志先金作りの太刀を帯せさせ
石打ち矢を背負ひ軍の神祭り
毎日ごとを歌ふ
前方の中へ本當の鬼武者
ゆゆしき白地に濃い金覆輪の鞍を
置き打ち掛け大勝ち
鑓踏ん張り法螺あり大喜びをあげ
て見た者ふ本曽の冠者

と目ふ人馬共に怪なる物
見物軍源の義仲を欲い一条の高
しそそりけ義仲祭捕り就義を
取る為に一条次郎
ぶりに出た大将本曽そのまま
なりて対やうに大勝ち南へ帰ふ
こそ対ん本曽
五百余騎に中ふ入る
り出へ一ときり南へ一ときり

あそこへ入ては破ては爰を破り戦ひ一本
打破りては又百余騎とは見えしか
其五千騎ばかりにぞ成にける土肥か
実平か三百騎計にて懸ければ毛の(?)人ありけるの
面をもかけ破りてはまた三千騎ばかり
ありけるに其後は百騎三百騎三百騎まで
打入ありけるを取てかけ通りかけ破りて行そ
まては主従五騎にぞ成にける五騎か
中までも巴はいまだ討たれざりけり

家に武蔵国の住人御田八郎師重
とてきこえたる三十人か力持たる大力の
剛の者あり彼か高声に仰せけるや
木曾殿の内には巴とて女武者あんなり
なりそ経(?)んでこそ多けくこそ思ふに女を
まさに何れの手かあるべき同じくは組んで
生捕せんと思ひ我組しと見えしは沖の[illegible]
とおりて寄せて落しかけてうしろへ[illegible]
ありし人の手の者に家の[illegible]

相ぬ[illegible]直垂小袖黄白し
の縅を[illegible]縅[illegible]所[illegible]軍[illegible]
黒白の太刀を帯十八さい[illegible]深羽の
矢をし二番者の[illegible]毛なり
馬は太逞し金覆輪の鞍をいて宗
[illegible]家[illegible]田こまやそ
[illegible]と思ふ[illegible]いもむて人[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]家[illegible]
田内きい[illegible]もさ[illegible]矢[illegible]

を[illegible]ゆ[illegible]おけ[illegible]ひを
と組[illegible]を[illegible]人[illegible]
をそ[illegible]田[illegible]腦板[illegible]
骨ゆ[illegible]
[illegible]二枚[illegible]
[illegible]前輪よ[illegible]
[illegible]
田が[illegible]
高[illegible]
[illegible]

鞆とりていけるまゝ諏訪をたちて
きのきい義仲いはく今毛もて紐ゆ
たんとさるべき女はいまもしらぬ所にて
なんと宣へい鞆こいはりまき事をも
宣へ抜うれいけるまゝ中にも中にも
ゆきい本曽殿う志賀
祖いうまう者性ちう矢ゆ巴ゆ宣へ
所ゆ女ゆ死よりうんい後代ゆ名ゆあ
志うへ巴ゆ

落行義仲う墓ゆ巴ゆ行ゆ
宣へ後ゆ体志うりゆ巴ゆ宣へい
鞆源を流て去年信濃をゆ
墓ゆ小平合戦ゆあ事ゆ
聞ゆうれ事ゆ巴ゆ
今主ゆ巴ゆ後と巴ゆ
落ゆ行ゆ巴ゆ
ゆ祖ゆ

[illegible]と寄ひ[illegible]い鎧[illegible]
[illegible]続く女[illegible]
我[illegible]
[illegible]
[illegible]討死[illegible]
[illegible]
[illegible]と寄人い鎧
[illegible]
[illegible]
[illegible]

未[illegible]討死[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

味方に続く勢はなし人々おはしまさす
てそ候はん兼平一騎をは余の武者千騎
騎とも思召候へし。こゝに年月の本意
なりしもかなしくとて一所に死なん
ずる命は惜からねとも又思ふらん木曽
なしい討死せんとてまたうけわれとも思
ならひと今井はそきるしかりかゝり
木曽殿はかけ馬の手綱をとつて
弓矢取は日比いか成高名候へとも
最後の所にてあしうしつれはなかき弓矢
の疵成へし。去は日本国に聞えさせ
給へる木曽殿をは某か郎等の手に
かけ参らせ高名しけるなと討奉
りなんといはれん事こそ口惜しけれ。あれに見え
候は粟津の松原と申。あの
松の中へ入せ給ひて静かに御自害
候へし。兼平か箙に矢七つ八つ射残
して候へは防矢仕らんすれは

そこに馬の鼻をそろへ
ぶ〳〵こうまいに本當力[illegible]と栗津の
松原にてそこなひ[illegible]
世[illegible]
（[illegible]）
こうして馬へ馬をうち入きてあるれ
ば〳〵そこ〳〵すぶ本當い
なかゝと牛うち[illegible]
[illegible]

打寄〳〵上野[illegible]
ばら〳〵あり大[illegible]
信濃國の住人本當[illegible]
本當の[illegible]
て[illegible]
そ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三平の耀うを射通されて
討死いたしとすれ今年廿七
死生さい三
八の矢にて敵八幡
きたりそして討死
志をまこ家ゆ京国相模国の住人三浦
石田次郎為久と名乗て本宮義と目
かけたり矢はゆ死ぬを三人張より十
三束の中さしあて并つるもろいて
ゆうと討り打落ひき折る間
甲をとるゆ討死痛手負い

甲はずれを鞍の前橋ゆ切りあてう
けさしてはなをうち落ゆ石田次郎為
義中して本宮義の頸
頸をとり切落よさしはら
ゆ来るく指上大喜とあて山
日は昇国ゆ中へさしあて本宮義
とい京国相模国の住人三浦石田次
郎為久かりこそ討死
七井出中とあいく雑をうばいて

軍をいたすべきいきおひ東国の人を罰せんの為に富士の裾野を引廻して馬に上り七鎧に上り常切のけ脇十人字しうを破り敵を切伏し死骸を引廻し合戦の切懸を以て合戦の場に成りて敵を失ひ

うち本宮方へ世一と井の四郎三千騎本宮しと井の方へ対面して重ねて軍い破まし

通ひが祐新

去程に通ひが祐新次高義光い本宮方へ孫父十高郷人行向河四郎長野七郎

をしてゆかく五百余騎にて向へ多りうち十高郷人長野を立て紀伊国へ落ぬ

しくは産うを通ひが祐新責うち

ゆ人郎ゆく軍ありうしくゆうそしうち

通くゆうしくれかり神ゆと井が下

人の男共通ひが祐新よさ山中りそんた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と[illegible]ことの[illegible]
[illegible]ん[illegible]ことの[illegible]
[illegible]中[illegible]一条[illegible]
と[illegible]ことの[illegible]
[illegible]ことの[illegible]
[illegible]ことの[illegible]

張り張り矢ゆい小歌
三歌対句一平矢種つき都まい
うち初の鞭代うつひ
つうつう歌二歌切
歌対捕ゝ我身ゝ
歌指遣ゝそ死み
て打ゝ出の初ゝそ
種にの小高量えと
中へ算よもてそ

ひうういう矢丸
かゝうん対一同量
命毎ゝおゝ
種にう命
炒へ中代うい送
種にの小高日代
運金毎うん
脱て海へこて
中代ゝ十発根弟

ゝ歌いさゆいうと三い
ゝ甚と情ゝ
ゝそ種
種にう
ゝ甲と
ゝ大将軍へ山
ゝ陰へ山と養

[illegible]
一[illegible]融つゝを世有[illegible]の河金[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]本[illegible]書う玄[illegible]法
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

井の伊島の蓋平とそゆめ〳〵樋に
乃ゝ島の蓋光とい蓋摺の重宝〻形
蓋摺のこと本曾う新の摺せ〻勢〻
大路を活されたり回り
乃朱雀〻川初〻絵〻新〻を解〻れたり
回を光〻を蓋ワ蓋平ん虎を
養ハ〻〻り〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻ハ〻虎を
〻〻〻〻ゆめし虎
回裏へて強将蜂の〻〻〻〻

摂津の八部郡より摂州武庫郡
にかけて山の中に大岩門あり
摂津国兵庫湊へ流れ出る東は生
田の森と云て大なる岩
と成て小橋の下を福原芦屋灘
と流れ出る勢凡十万余人
ありしに元暦年中に平家
の家人三千騎合戦の時
東国より付て有の軍兵共
とりかこみ奥を攻る小山の麓
に流れ出る海の岸に
へりくだりて小山の樹木
を伐て大木を
ひろき二大石を
と流れて橋柱とす海
橋柱とす摂州の
十重廿重に
る橋をとりて上へ
下へ渡る

所々なくみちゝ者い左數を打く
亂れすゝこと所ゆへ希讃いく手負と
云數をきゝすて打立ゝ有り者共ハ書
ハ小ゆ者ゝ手ゝ手ゝ戦ゝ海ゝ極火の
燒上ゝ手ゝ手ゝ打ゝすゝ詰ゝ之とゝ
腰ゝ之ゝ腰ゝ之ゝ覚ゝ

六ヶ度合戦

去程ゝ所ゝ隠岐ゝ之ゝ山ゝ法ゝ平家ゝ
ゝ忠ゝ之ゝ

てんぐ様ゝ様ゝ様ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

対馬の国の住人痛手負て生捕よりそせつ[illegible]
して[illegible]の[illegible]五十余人う
[illegible]て一番に[illegible]
国の住人[illegible]忠[illegible]
源氏の志[illegible]小原五郎[illegible]
[illegible]河[illegible]と[illegible]
[illegible]山中[illegible]
合て船[illegible]六郎[illegible]

中黄[illegible]痛手負[illegible]
て[illegible]和泉国[illegible]
[illegible]川[illegible]
国の住人[illegible]
[illegible]
[illegible]

ら生れし安摩は六百餘騎を率して
責て来る由聞て大に喜び
と雖人原より海を渡る我等は
京より下る一騎も
先安摩は六百余騎を
海を渡り百余人の頼朝一騎
黄人を高き山に
は高通信五百余騎
安摩は六百余騎
海国中より海を伊豆国に
敵は中を中を小原一百余騎
安摩は国に押寄
海を渡り無
もう能登さし山中を
は国に押寄
安摩は国に
能登国に
能登は
能登は
能登は

ちと迎へ甲を脱て海へゆこうとする者
を追ひ取て本陣へ討ておくし沼田縄手
より寄せ来る所の敵人
小平八郎左衛門二百余騎にて進うけ
あり河野通直出て戦ひ互に
騎馬より下て平八郎方へ
平八郎高名を奉り拾余騎にて進うけ
あり河野通直出て戦ひ互に
二騎より寄せ来る所の敵人
平八郎方へ

より安信の七郎高成共一騎にて進み
出る河野通直の郎等の者出て安信の七郎
と組合ひ河野通直
先上り安信の七郎
あけの者下り須賀
肩を引けて浦へ出て
丸岡と打ち合ひ
野と対峙さし
郎等二百余人

[illegible]程ハ九国ノ住人同
[illegible]ノ三島惟義河野
ノ伊予島通信ニ人一ツ成ル軍合其
勢一万余騎ノ余騎捜ノ為ニ
備前ノ国ヲ攻ントシテ未ダ城ニ拵コ
モリ給ヒシ義山中ニ
一騎ノ勢ヲ以テ城ニ拵ヘ
勢三千余騎ノ備ヘ国ヲ
城ニ拵ヘ[illegible]

[illegible]ノ西ニ高ク小勢ヲ
城ニ拵ヘ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]百余人う損ぬ一方へ[illegible]
大臣家[illegible]の下[illegible]を
大[illegible]感[illegible]
[illegible]一方へ[illegible]
往[illegible]
[illegible]平家[illegible]
[illegible]
[illegible]
僧[illegible]専真[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
そ[illegible]
人[illegible]
[illegible]月[illegible]
四[illegible]月廿[illegible]
[illegible]花頼[illegible]院
[illegible]平家[illegible]
[illegible]
院[illegible]
[illegible]入[illegible]相国[illegible]
[illegible]忌日[illegible]平家[illegible]

一門一所に指たる[illegible]
[illegible]
月日を[illegible]
光りきたりうかり[illegible]
世[illegible]
[illegible]の賞を[illegible]
[illegible]
[illegible]

とて源氏の物行りす若将門しう下総国おい
馬に乗れ小船をとして百宿をとり取り出い
暦れ時をそたりう事の内まい是いそれ
仏へうす立上船を初めとうとうとい上をさ
神宝寶剣内侍所三種の神器を帯して
きう内をい深月をこうりう事を内儀
なうすうそ人中事
三月うう天対
去程源氏乃中ゆい国ぞ二月四日昔軍

可をう鎧を着をあうう二月四日へ
入乃和国の高日とゆうく仏事をゆさ
うんう羅源うう人しう五うい西ふうう六日
と乃屋日七日月日乃印刻よ一宿生田
れ森東西れ懐に入りて源平平家矢合を
そ宣そん市りうさ仏事四日者なまへ
門和計をせうやうそ源氏六万金銭を
乃国懐に二日小日生田
先上乃れ上将軍蒲の内曹司花頭

みおはつ人くとの義田氏大高伊義加家
乃次高元光真いさよ氏小次高長清一隆
次高忠頼板垣乃三高盛信牧氏なん
信光次てんて氏義出田氏こん義
真こうて三高義行板垣氏亀山
氏庄司次高重忠舎弟長野氏こん重
清同さ氏行綱こくし大高重頼嫡子氏
重房深沢氏庄司三郎こくし大
馬之重資板垣家手こ家時嫡子氏

家季次男手次家高三高家重小山氏
友長清乃高宗綱乃七高友光
佐野氏祥師大高
遠江の三高忠家同さ三高乃家河
家ちん乃重同さ次高古重動使川原
乃めこて元重信盛乃高維盛佐木
三高中深同さ次高才乃大高義清
中村の大高時忠氏小次高有盛推若
乃小次ん有程馬の小次ん義守胃我高

貞信公の御息男伊尹の子
[illegible]
[illegible]
[illegible]

清盛多人良ハ大高判官安治
比治蔵ハ高倉宮ハ弾正ハ
大夫宗重別当小太郎
多高等ハ奥州の住人三郎次信同
ハ高ハ惟盛ハ伊勢ハ三郎
義盛ハ源八廣綱江田ハ源三義井太郎
義房等ハ新宮十郎行家ハ
一万余騎ハ同日ハ同時ハ京ハ
二日路を一日かけて丹波ハ備後ハ備
中ハ小野ハ東ハ沙を
そゝぐ様ハ平家ハ
てハ小松ハ新三位ハ資盛ハ有盛
丹後ハ侍従忠房ハ
ハ九郎ハ三郎ハ
津ハ

と海てそ上てくるかつて弟の兵部少輔
は乗船入くるを見て曹司弟左肥の守
とあつて平家のせこの金藤兵衛尉
と聞くしんのうそ今秋庭対のもとへ
出入のとは軍もたくさんと宮人
こゝかの宮かの伊豆国の住人田代の冠者
信澄とゝ申しわくらうくらい詞いこの
金藤兵衛尉一万余騎の勢を遣かせ
さう毎り食軍りたい平家の人勢うさ
あつる孫兵衛尉は平家へ対し奉
よかんあつて覚えしかは左肥の守
是ゝを聞かる田代冠者平家を流い
うつそゝ中くふうしつまつて
所へ二度を一りかけ打ち馬へ人へ
妻飛まくりうれは左馬の服装を変
早は緒代を外くそうつまうう
柳ヶ田代の冠者信澄の四
司中の三郎信澄の子ゝうり信澄

國の住人野殿の光義の娘の御具足
儲まをもて祖父の所者
らまつくそ弓矢とらんとこいらかくりそ
出家をあるの法師の弟子
資行の郷まゆい五代の孫のうりの
俗性をよりまの上ら矢とれて
相しうりうの法師合戦の時
を一本射ぬくとをいいの
人をうり射ぬ兵法のうり

射清武の者射へて曹司のい家れ
うりをそゆのし色をうり者のをゆん
曹司義家五太肥ん太とあて制
の大績打をいふ宮人のうり法人
をそ横武のうり績打の歌の
三家の大をそ色のうりをと始
して形ふ上ふ者ふ対あり
者をい意ふいわを色
家ふ知ちてる稲のうい指しき大

幸そしてあとよりくまの手より軍を
せんとして或は籠とをとりくまを抱し
或は甲をとりたくまを抱し兵庫を
はしめて平家の方へ向
けれとも平家の思ふ事ぬ
所なれとも力なく鞭よりて力
力なく繰をくりて真中と源氏一方よ
後ろけまつくしてさりとて平家の
方へ

向ふ五百余人そ対馬上ろうを狩
平家のうつ大将軍新三位殿新中将
殿や丹後の寺殿丹波殿備前殿
つもち殿ひらの殿殿
産寺いらの殿殿
一谷へ攻入ける大原
ありうまい大原安義
ひ義仲の
ふ所へ

稼しらうとう大将又雑賀孫
佐右衛門とて二百人の兵庫まてのぶ
面々しらうとう一人宛名稼せ
らまいとて雑賀ひらう人くらい
と宮ひ出さいさんし毎り出まい雑賀乃
邑雑賀の軍七年我自稼り九年
しかりゆくらあゆ所りむめしらう出れい
融通を以てとうの物ありきてさ
面々ゆう稼くしらうれ是こうれうん

其ひしらうん所くんいひらうん
といもくくい軍ゆ勝しのいつ方くいゆ
只者ゆをさいらうんさうすい数万を
うしひ者を出人一万ゆ雑賀くん来
ゆ入くゆ松下ういしそ宮ひうう佐吟く
出中くりうそ出い大将不動者ひ
行くけくこ弁ひ者をわこて彩
中ゆ云知盛ゆ三位乃中ね重盛二人
大将軍ゆ七郎合ゆ勢五万余大

手出国へ森へ向うまうり薩摩の
忠度位馬守経政の妹聟の経俊三人大
将軍として都合三騎四万余騎一谷の
西へ機を出へ向うまうり我が三位通
盛位登り数万三人大将軍と七騎合
三騎一万余騎一谷へ搦手へ廻りまうり向
かう敵の三位通盛の屋へ
敵へ向のまとひ入て

寄せ合く戦あいまうり
が敵登り三位の屋へ
こいき而して教盛と指ひきしていう
敵こい申入へ上れ山へ歌ひうつ
ともうしうへいう
とまていうのまう矢を
もきまう入まていい叫
うしろ者とももてい大死せ勇ま
志ものもとやうう毎せう

と宮ひけいさしれ毎のうち主い三位さて
そ小弗をい亦へとうの女まく原て弱を
してそ行主まうう初れうきの日
れ和か入く雀れ打原人て毎れ雲昌昆
湯殿のくと人ちたい源氏てんてか
を火を燒時くうの元の昼れうう平
ものくひうも火くけ原てくれくとの
沙の簫をそ燒名うう小けゆくま
か毛を人主い行者れ雲よてわす源

氏七れ矢合とけうてん者主へ平家
れ中ゆいて屋うう〜ゆうんう
も志名す

鵜越

同さ六日れ日の朝九郎の曹司義
経い一万余騎の勢を二手よてまう
うれう主先三肥の源平か七日
余騎をうう別て搦手の波うきへ
より一れ若の西れ機ゆへまうきか社

武蔵国小て生まれて
しかも西国の山の軍西ちゆ
い宮人い手山宮中
そしらふ和ゆる音霊初代の家と
人物ゆ斉人うゆ
城の陸ろ山の西ちゆ
と中毎りそまい
人ありそまて
り刑対ろ小土清重
曹司こまを侍
ゆ
国
十八家ゆ

我ゆ
て一百ろ陸戦場
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

繁昌の世なれば都のうるはしき粉の人々出
来て山越の物とせよと又
詠ふてをそれまとひいうん
下の河い老馬よりも愚ひとへてうかけ
大勢のまつさきの中に進みくゆけるを
取人わりしてをそれいとゆ
毎り前まいに曽司こまと又屋そうう
もやしうあれ雪い形を東をうしの先
とも老くうゆをそれ乃いうくを年を

とも白髪毛かの老百二丈ほど雪ひとん
て行を土勢のまつさきに進みくいまさ
たるあ源山へをそれ入れ此衣更衣
初め年のもとい雪はれ白雪ひしきをそて能
とも人ゆの所もあり雪雪雪をとつ
て雪ひまの所もありの白雪頃
くうの白濤へをくきい青山の御こ
とし雪毎の杉の雪くゆ濤毎て
雪ひをそをうゆ嵐毎形くい

[illegible]
大勢これ[illegible]山中[illegible]
[illegible]
[illegible]

人い毒殺あさうかうとて丹波の国
山崎の宿に京商形（ぎやうしやう）
に曹司（ぞうし）とて〳〵よ加（かう）
ぢのかくう高（たか）き西いさう人（にん）と商（あきな）やあるが
ぢく泄屋（せつや）して第四（だいし）の宮（みや）と呼（よば）せ給（たま）ふ
年老（としおい）くかゆ〳〵時（とき）に曹司（ぞうし）
ちあるうちに〳〵ぢく泄屋（せつや）第四（だいし）の宮（みや）
と呼（よば）せ給（たま）ふ人（にん）い形（ぎやう）く然（しか）して宮（みや）
十六歳（さい）の秋（あき）と曹司（ぞうし）（ぞうし）の沛

曹司（ぞうし）不審（ふしん）に思（おも）ひ〳〵くら者（ものし）を遣（つかは）して馬（うま）う
家（いへ）やして第四（だいし）の宮（みや）を召（めし）て出（いだ）せ給（たま）ふ
そなは曹司（ぞうし）の後（うしろ）に宮（みや）の第（だい）の召（めし）て
奥（おく）へ〳〵和泉（いづみ）して討（うち）奉（たてまつ）る召（めし）て
て〳〵ぢく泄屋（せつや）討（うち）死（しに）しぬ
第（だい）の人（にん）しとい毒（どく）やうり父（ちち）と称（しやう）の長（ちやう）
武（ぶ）人（にん）〳〵そ者（もの）かの武（ぶ）
国（こく）の住（じう）人（にん）然（しか）して次（つぎ）高（たか）寅（とら）
皆（みな）第（だい）〳〵人（にん）〳〵嫡（ちやく）子（し）小（こ）〳〵寅（とら）を

呼くいを奇るいあ平い中ゆ兵ホ兵
さんとまいうちこと軍しん祇え
と三平をあうちいやと歩夜て
ちと情で鈴ゆ三ほうきいかちく
ホ一石ん西ち機で人ち揮者い
角ちいかゆしあうんこいもうれい
小ゆ武を中ゆ三ほういもんとけい鶴
ホ三せうんそ口うう独石平ゆを
しこう軍ん祇ゆ地ゆまいゆえん

人ちを高弩るを者ちこ分人を者う
ホ兵ゆ平ゆを地ん平て行三市う
うんを一石ホうんゆ三ん月軍ん
ちうす書宇ホとんそいとり
を小ち米地ゆしと情平ちそん
市三うう良弩うう馬ホ地剣ちゆう
くい馬の長合うゆしうう市ゆい平
ゆゆくうゆをうそ我猛金ちの口兵を
兵市う対ちこを西ゆ兵西ゆてう宝

て討死せり人きゆ中ゆ中ゆ中

まて所をかりて兵機を知人はまつ此こと
輝義くらんわきまりよ和よりよりたる
給つくく勢を高くつし津つ和と
て清こと千の源の者川流れ多
れたりたりたし

然吉平山う一二人然
然吉のかの小源よりれたい我二人と
男人すさ山色みて元けせたりと
村生れいたを人て兵のりを給

給ん人そりをたて撫打れたい
ふ五鼻はこ千りれ小輝義陰ん
たりけりを主りたう大毒みをあけて
色い義国の侍人然吉れ源頼義
場五の小源頼義一て吉の
先陣そやたそ名常りる機のたり
ゆ山中代常くなおたりそ誠
矢指代対面をたりを山鼻とはたりさ
せよりておたりんたりそりたり

平山しをけ分わるん和氏の妻小ぶくと
いそくめくて坂とうの人あまい武士
して二ぶ相撲くらべ平山元くう香宝よ
能登元くう東実よいぶくりて肩しり
くとて答者の雪しぶくとよ
命ちうつると横田あくうくし
てもて走くちくつる大番
うとくくて武相しいあ平山元あま
つるかされけて命りあたくあひて軍

ぶくくくうくと云い味方相撲清
水をけて上ちうくあくと人の不覚と
し一番よ見くたくい平山とくて
あ主源人て対主そんの時そとと云
見雪雪者ありして小坂のかあり
つる小平めけてうぶくくして
二番味方相撲とおるあ横田と変ふ
いそくいう者て人うしあけ毎りいくあ
ふくと色い雪雪ふ地いくんすくうくと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

貞盛直隅の四郎を出して宗任に
申さるべき儀なりと云へども
こと叶はず中納言
こと叶はず平山の手の繁家が
金目清の赤面の盛と云
清紅の縅して
角の目槽毛の鎧
志ある二つ引
首用毛の
名簿ありと云へども
高名

高名をあらはして毛の
度の合戦の高名
武蔵の住人平山の武
志ある仁平元年
と云へども
平山と名乗る
平山の武
高名

高名をあらはして毛の
度の合戦の高名
武蔵の住人平山の武
志ある仁平元年
と云へども
平山と名乗る
平山の武

操よ操くゑ[illegible]
親子の中とは[illegible]
と真中よりおりて[illegible]
馬へ乗一足ひらめき[illegible]
と射たりけるに[illegible]
乗馬を手負[illegible]
乗し馬しりもり[illegible]
うち強いるを小次郎[illegible]
さん大矢[illegible]

人うちとりて馬へ乗[illegible]
と思ひ[illegible]
つきとおもせよ矢[illegible]
射へうち強者日[illegible]小次郎[illegible]
しかりてさこそ[illegible]
傷しい只死[illegible]
[illegible]は強者又大[illegible]
[illegible]中[illegible]
義よこそ[illegible]
人の[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

なり雖中世以降武士の間に
紙の面に七言詩を書き
不思議なる力を
人々信じそさうに
言ふとい元亨
年中に成る
巻物に
小家くそ戦ふ
芸藩通志

清原清熊[illegible]
[illegible]
[illegible]

て大きゝ服をきて馬に乗り西かうけへ走
さゝくこそおびたゝしけれ三ゆう熊谷
が嫡子小次郎直実は年十六にぞなりける
あまりに小くこそ有けれ熊谷
ゝ直実を招寄て申けるは熊谷
平山殿はいくさ上手にてわれ
けへ入給へとゝいひけれ
とゝ申ければ熊谷平山一陣
を切そこをもとをしてゝ
京童三年続て
実平七日合戦して押寄あり白旗
赤旗おつ立て火おの
て一石れ軍いさゝかそ戦ふ間
乃森の軍い未始
抽賞二度ゝ紅
中小屋に源氏乃追手に武蔵国住人
河原太郎高直同次郎高直
兄弟あり兄ゝ
河原太郎高直弟次郎高

大名にて我〻に兵庫
の方へ下り給へ成功の賞ふ
と我〻が扶よ方ふ前の者い我〻
をとりつさていらんと叫きこい
和尚の夫合こい宝〻しかりう
作給があきりかの人ちかに恵い一
人成作城の中ふけ入対兎よせんと
思へ共色い色こり高よ下て書子
作よ山中角と語へ〻こいもまれて

寺亜中の〻洞をかうちかこ出ちとする
と宮人ちうの出光弟の者の兎を合義の
傷ふ人程〻一人高宝へ下へこい切
かの者の中ふ人きと一かて対兎か
いこ中す何兎ふ鳥ふ中ふて牧の新人
とい下人男か古高へ下ふ兎弟馬
をくくるの主ふ杖をつき生国ふ森ふ
逆家と上り城の中へ入ふり
う未正ふ対弟の者きい城中

ゆい火をかかげて静かにつて来る
せす河原左右の戸ら杖をつき大勢を
ひかへて先い武義はまれ侍人私は堂ゑ河
原左右の私市れこの迎ひ次第寺出
と称左右の田の森の中をくらそ
者繁しの城の中ゑ山伏ゆくめつ
くまし東国の無作法者ゆ有情
うゑ右ゆ山左の勝の中人二人乗人
くい行かれ事うゑ人きゑんさと

て愛せよ原とて會教考えて命うゑれ
河原左右矢把さりて拝ゑ右指錯
り指錯しよ射うゑ小城の中ゑ無ゆく
射ゑうゑ城の中ゆそしを入くいゑ
らして乗ふくまこ乗ゑ右ゆ
するゑすれ射捕して左勝を寄
れくみまこゆ二人中ゆ緒中ゑ
国の侍人真鍋の伊高左右高
中ゆ先の伊高と一番とれ

毎月朔日ハ三月ハ森より出ル
三人くり二十三番の中へ入て打
つもりつもりいて出ると討ル打上
ハ原ハ焼りあとのりて立ちうの軍
と云ふ事ハ討ちたく記ル西氏ハ
ハ源氏ハ高ハ三ハ月ハ
逆茂木と云ハ人と云ふ
ハ鳴ハ二ハ矢ハ打ハ
云ふ事ハ討ちて見物ハ

ちて伏ハ三ハ鍋ハ高ハ人ハ
ハ原見物ハ鎧ハ大将軍ハ
せ事ハ新田ハ武蔵ハ討ハ
事ハ一人ハ
ハ人ハ
てハ情ハ
下人の男ハ味ハ中ハ入
ハ原見物ハ今機の中へ
入ハ出て討ハ

[illegible]ありうまれたる桃原
山[illegible]をあのくらいあい老い私の童の
及原れ不覚したるこそ河原兄弟とい
対色こうまたこそ代なるくい河つんまやと
て桃原うの[illegible]五百[illegible]貫河代作り
うまたい味噌れ五百貫銭も河代地蔵
の五百金銭し同じうけのこうとろう
あり色こうを十百金銭うけ代[illegible]
ゆえ天くいきたるゆくくれみり

[illegible]時のうこを静のうくい桃原の次男平
次童澄父母い角兵のいとして職の中人
ありそうく桃原使をと言くく味噌
数の一銭を使こうこうんゆえんけうん
ゆうのうゆい勇功をこまきとこの
大将軍こうのう寝しをあり殺とい
をこうまたい平次こうくくこの人こ
[illegible]こうの名使人少こうの梓ら
もいそういう人をあるいいこそ

とゝさを折へてとゝ[illegible]
[illegible]原ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]原ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

京河軍して世の中のうんと心を
ふるまへ源氏を
てて行かうせんとて
海の大勢ぞ
て為朝
ふれい義朝大勢
かんとうけんと
て思いひ八幡
福金剛の
六藏して
ニ本矢を
北産の
五代
時ありとん
名しわ
ふう
しく人
が敵八
六藏して
ニ本矢を
北産の
五代
時ありとん
名しわ
ふう
しく人
が敵八

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

弟播磨の介義高合戦の
頃とかやらん源氏と一ぬ石生
田の森東の搦手に押寄たいりみ
くうの人数をつくりみ常
の曽司義経三千騎
にて七日の日卯の刻
に摂津の一谷の後鵯越の坂下り
打臨て人馬もうみ輙落事
なりうん雄鹿

二の書庫一の平家の陣へ
平家の中へ
うん鹿うて
を入
あ
の
の
の

をれうて人数をつれうてもち
矢羽屋百もん寸切りとも行事くぐ
まつされかさりうう雄鹿のまい中
射てそ留ちうそこ三て百ぬきれい
毛皮をもくちかの乃すちのもくを
ちうありうん書をはれ鑓刑市次ぬ
鹿代し留ちり書鹿とい刑でそさち
うちんのち物ちあり鹿ちかの原
ちいもちれい幾市れん司國後さ中と

ちかく行の弟乃原れ只今弟の鹿の刑ち
れ矢あちのかしそ中ちうち曽司ち
家と落ちうんち三百もうん孫よ
鹿毛水馬一疋白ちる一疋
二疋よち置むちんて行うけ大野ち
さきかち進落ちれあり弟きい鹿毛なり
百いかもい三ありうん百ち家ち脇と
つち指てんちり白毛水ちるい幾市
れ出ん司國後ち原形ちまん御ちく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひて梧樓に入り十四丈を落ち
無疵にこいつみ老いの母と
ともに山中に蟄居した
ひんなる地位に
あるにもかかわらずこそ死か
あるべきに無駄に落てい死あるすこ
しかるにいせんと絵伝をもつて家か
相模国の住人三浦佐原十郎義
連生年十八歳小旅者なる鎧ひんな
ほうを立ちかうるを見
衛のうしろを指せり呼い老一王丸

紛るひつ追立くこみ船の舟を
こそ地わるきこの魚人い老いこの三浦の中出
ろ備やうそ高ほうもくり大勝ちまつ
先ちこそ落ましこの金剛の若武者も
とんくこみたいそ高ろうろう先陣よ
落ちと出の軍の船い後陣よ落ちと出
鐘ろ鼻ようつ
紛回の神を門ちうえらの器をもちえ
てあまりのいあせこみ月をふさえたい

[illegible]
[illegible]
[illegible]

蔵中ゟいよかんすとをあまりみ周て弐一
艘よ抱めくさくら戦ん作う空又百人ゟ
計乗ゟく蔵中ゟいよかんすと清
三町いくりわ木大弐三艘さけて一人を
脇ゟ大臣弐宗中を人ゟ思て元人と宗の
すう作決ゟ面の者を人ゟすと宮へい
乗くて弐人の宗ゟんとさきゟとをとゟ
弟力とあり色て引のとり入決ゟ風者の宗
屋ん〻さきゟとをい者力七力ゟん艘とて

ゟ色ゟ角ゟ人〻とさゟゟ融り
色て死ゟて死ゟすゟ毎ゟん
て或い腕切蔵され或い指ゟきゟれ
元ゟい弟ゟ嘆ゟ清一倒ゟ即喝ゟ
呼ゟ年一石新

幾中ゟ先司ゟ宮後
結養弐い一度て百元弐紙ゟ人のとゟ
ゟ色形ゟ主ゟく面自ゟ思ゟ主ゟ人ゟ学宝
と云ゟ宗ゟ只一蔵清と面蔵ゟ

情実を糺すに付て殿様より御使
を差出され越前と信濃両国の栗
毛駒を拝領に付真と主
従二騎ばかりにて信濃
国岩倉人木村内匠と申者
主従七騎にて進て
申ス様我方より戦ハ敵
我方い木村内匠より対面ハ
中ハ難申の出ス間敷候いろ〳〵

緋威の鎧と毛栗駒ハ敵ハ一騎
備を為へ騎馬ハ一騎
こちらとも加こ家ハ
而代家ハ義ハ国の住人牧嶋ハ小
平六教忠ハ
交組こちらとも出ス
ろ〳〵人数ハ而ハ
人数て
ハ難申ス間敷
人目ハ三千人ろ

力を[illegible]うう[illegible]ゆい六人[illegible]
あ[illegible]ろう[illegible]ろう[illegible]と共に人して輙く
[illegible]おろ[illegible]ろ[illegible]きい人六人ろ力して
[illegible]の[illegible]指僕し雄藏ろ[illegible]に一二[illegible]
[illegible]前とい輙く[illegible]なんとして京
[illegible]ろ大力に[illegible]ろ
[illegible]に[illegible]く[illegible]
[illegible]ぎ[illegible]ん[illegible]
[illegible]平[illegible]ん[illegible]

きい指文人よ思[illegible]寺教恩を[illegible]
[illegible]と[illegible]そ[illegible]
[illegible]平[illegible]
[illegible]藏國[illegible]上伝の[illegible]七[illegible]
[illegible]
[illegible]僕
[illegible]
[illegible]
[illegible]

但し前の右大将殿の御子
三位中将殿の孫
也いりて一門の方おのおのうら
ぶく恪と申す幾内の出身の国盛
三郎大夫と申す人
まいりて一門の者そとひ者
乃小平六新開と申して十八歳より
後幾内出身の国盛と申す人
押領の者ゆゆしき大力とぞ和

君の事の為に軍の面をうち
ける源氏の軍十年の間
ぶ産生いろ人い
よりて新開の軍に勇功ゆゆ
助中さんとの幾内
出身の国こそおい和泉の平
家今更源氏を思ひ
又平家のとぞ思ふ

之て又爪て揮へく須とめんと志
者りる我僕しそう醍しそう醍
わ色そいうすめつこと千英方面さる
海人の芸須しそう屋しやといそしく
幾年北出る月番ふしと知毛て行て
揮しはつしそう志わしそもの田しそうの
めう番りそうしそいさ海を浜田八番い
すそうしむあそうる自ら屋しそう方ふ
腸しそう番足そう牧しそう揮武志そう

二人年中息を沸く者ありそう方人
見の如高三年談計ゆて中来る幾年北
出る月事る歌を月しそる与面りり
そうまい牧僕あまいめしそうそう番
教器う僕又中人見芸ゆりしと志ふ
てはう宝く教器しそて暑はりんと云
そう牧幾年北出る月そそそう歌と狂月
しそるそす面りる番まい我僕めいと
まして友彩人人をはい

ちう丹ちう高あらの手あるとも
ておはるよみ人て清水よりを射そう
牧僕力是と踏ゝけう立ちりとう
しう弟め雑市此はん目う還て腰板が
そこはそ嫁なる法四人まれ弟めつ式
あとす雑市此ん目い天う男此重鐘
見へう弟うう懈うく孫とひう弟あ
ひがこくめそかこんゝと去ちう
と牧僕あゝく輝う力と板重摺

を引あけ三力さいて須とあそ後貫を
五力此切さきこうはあきうるく
こう上大嘉あをあけて山此手家
此手ひ牧ゝ鬼神のちうみ中ゝそう
雑市の出ん自域後とい東国武義国
ん僕人牧僕の小平六教僕うかうそ
付主屋ゝそ名ゝ京ちう源氏の其此
山中此ゝく勇ん言ちう手ゝ解

薩摩ちるうく家朝

中山忠薩者ハ忠度い領地の鉄ハ忠
富小栗栖の住と云鉄ハ甲
州鍛冶ハ金作りの太刀と云ハ
あり切刃ハ矢負ハ毛数馬ハ金覆後藤の鞍ハ
只一疋清と云ハ武
蔵の国ハ住人豊田六郎上忠澄と
名乗ハ只一疋ハ清と薩
摩ハ武ハ忠と云ハ

ハ鍛冶ハ武ハ一刀三刀
ハ二刀い羅宗
ハ一刀七六郎ハ

ぬりを突擬所ろうろうをよ六
郎左ろう幸ひをかまえ地と地来り薩摩
竹打所へ右れらいるを打蔵ちり
薩摩なる今い叶りしかも思ひ出ろう屋
きこそいれこの者西ひりきんとそ
ぬりをして六郎左ろう鎧の上帯むん
とはうてろう長二長斗ありけり
けるを舞たのををあけ一こ光
明遍照十世界会衆高生摂取不
捨唱へとそ左衛門よ六郎左痛
ふをあり郎の薩摩なる頃を討
頃を捕ありろうぬりを頃ちり
ろうろうを頃ちんとそ惠喜をと
きこそまい藤ひまを行ひ出ろう
ろうをありさいそ人者まい接者れ
と云郎と七一首れ高ろうそそしれろう
り高これ下法を宮せん
ぬやいろうあるまし

平氏忠家と云もの有りしが陸奥
陸奥守なりしに去つてんとれば其頃
人皆方々へ去きよ指つゝあきなく
うつわ物大書多くあつて山内殿
つゝかれ指しゆかしと思ひ陸奥
殿とい東国武義義朝公へ参る
六郎左衛忠澄うかゝうこそ対面つくゝ
参りそ乃家うう誠しく味方しさを
ゆゝしくかつよき陸奥守なれば
しき武勇ふかく備へ有様さ大将軍に
はふさはしかりしかとも情ある人にてありけれ
中ふく但馬なる住人い作未ゆ高ゆ
組ゝくゝさ組めゆ
源氏の家書ゆ組ゝ対さ組ゝり
清房へ川越の小太郎高家と
対さ組めゆ尾張なる清貞さ金子十郎
高忠と組ゝく対さ組ゝり中ふく平中
納言教盛の末の子ゆ新人の家物語い一

門かなまつ高き馬に乗りて一騎者を面
に立てまつりて西京書陸園の侍人法地屋
乃内倉戸を先として若宮くに一騎して遊
を乗りの成盛ものくやつ高ものして
をとすまやとそうりうん屋にわかれ
てしまとして法ものくさとして法地屋を大
力ものの地屋成盛しかやつ中ものくうしの
てい屋をうをとい二年ゆうしの水をくく水
ものあり人よ小四郎前に古井に

いもうとふらを法地屋入て嬉成盛の二人をて
て法つすゆ中ゆくくばゆつてて作
うう法地屋ものうんゆ矛を失ものくものの
いくくゆそくくくよくつありうれた
遥ものゆ井の屋ゆ家ものを法地屋をう
うものうて人者をの矛ゆ鎧を搦縄目
鎧の鎧ものゆ黄白ものあり者をの矛う
をくくうう甲ゆ鞘をしんをくくはくて
屋つくいものくうをい成盛の法地屋

[illegible]
[illegible]
[illegible]

村々の絶えぬる事を歎きて社壇を
築き八幡宮大菩薩を祭りそめ
幸の鹿毛の駒所々に乱入して
威嚇をなす日吉の神官
ども二騎打つまくて法成寺の
地にうち捨てて脚を
縮めて付け入り洗ひ
清水川と云川辺に
蓮華寺と云馬
場屋に沈んをとりてそ
の所にうち置きて
住人庄内の
人数にて進発
幸の鹿毛い寛
敵く進付人
叫りしに
二人とりの十三郎
ゆもを付
三位のめ

毛がわはよく丈夫にして
乳ぶち絵花美国風長山中を入れて我
ものとなしかいたれば
せんとなりたる
事一盛長より見ざさい拵ひ
こと馬きいたらしく家人共耳かく
ゆる鞍をあけて地もり立たい叶
いと思ひ思ひ
あらんに成へしと
ものとなしたる

ものに成しかい拵ひ
あらん馬にしかりと上掌切れ
せんと志ろうかかる庭を高地を
付たるとうかかる長刀
あり尚さのつもの自宅
せんとして我ものの助来
鞍の前輪かたくかかる掌切
ものい素稽しかりの味方の人々
ものの平家四人ものの内ものもの

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あり歌しこうして後くいざとうして高歌ず須
臾切てあけの者と[illegible]
ずして歌う事い高く[illegible]
頃と元暦元年[illegible]
ちなれば頃元年[illegible]
てんうり正月頼賢[illegible]勝の[illegible]を
あらみ対[illegible]
春のうち歌三[illegible]切
対死[illegible]

竟の名馬ゆい[illegible]新あ海のかたに[illegible]
四町を隔ててく土[illegible]の[illegible]
うう年[illegible]ずして馬[illegible]
ずうう者[illegible]
[illegible]の馬[illegible]
[illegible]馬歌の[illegible]
しうんうて[illegible]
[illegible]
[illegible]

矢者の五てをさし宮へい力五度そげ〳〵
矢をそうし越てとさ山馬とて此馬を打ゆ
〳〵しく〳〵あるを取きこま
りく〳〵ゆ番をてしく宗千ら抱をなり番
をいゆ乃力ゆ陸ゆ海さ沙りなゆくさし
馬わりの名殺を惜しく覚して神
ゆ〳〵ゆ殺まりあるゆ馬場とをつく是昇
しそこそ三あり番と屋てさ馬をは
河越の小太郎三度ゆ曽司へ

まりそしりそそ河越黒とい名黒番
ゆ山馬い信濃ゆ井上りゆ院へ新也
あり番をゆ井上黒と新て院へ
ゆ厳ゆ三ゆ名ゆ番を八幡ゆ宮殿
ゆ内大臣ゆりゆ紙〳〵四枚ゆ毛ゆ
ゆ院りゆ下ゆ名ゆ番と四郎ゆ
ゆ三ゆ郎番らりゆ中ゆ三あまり
ゆ山ゆ殺和尼して毎月朔ゆとり
奉山弁三とそ名ゆ番ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑい五郎うちの仏ぶし皆鐘の神とそ
めうしうう

ある　備中国くこの名板
中ゆ小杉五郎の妻の子か備中国師減
ちと宝七八人小五郎一名家り一名家
沖より海へて軍ぶ敗ぶ人計ぶよ
家一新中四云の仏ぶ大高材宗員と
中ぶ有歌一遊多ぶ生法へむいて
肥下沖ゆ五郎ぶ海へいゆあぶい

備中国の家の四郎とく人を
人あつぶ家りうう家ゆ毎ゆ
備中国四郎ぶいゆ宗員うう名と和
ぶせよ家て五郎ぶ法へぶ毎ゆそ
う正ぶ義ぶ七郎うれい百ぶ
ぶ腹ぶうゆ郎ゆうし人ぶ人
ぶ郎ゆそぶあ鉄ぶけ計いあ
家人ぶそ人ぶ備中国ぶい歌のを
ぶ人ぶ宝人ぶ郎ぶ天の

男は重鎧をきるうちにはなきを
小五人はかはきよがくして荒れたんゆい
なごりをいとうちの人きの糸ゆをしてて一人
しゆ〳〵すぐ富士の高嶺にのぼり
流れ〳〵無ほ世間にしらせ
あけくれ〳〵須臾をわすれ常世をも今年十四歳か
そなたの世をうらむ

敵威

かつて者の平の武義は四の位人無義

次高重実いあつとれよりうん歌る今
ゝ及ん面そ〳〵ゝ家をとりけ常り
〳〵人者の平の中か家か祈りぬきりか藤
綾〳〵ゝ重実か萌黄匂の鎧をとき出新
打〳〵ゝ甲は緒をとめ金作りの太刀と
帯はさいゝゝ切射の矢負箙ゝ
打〳〵ゝ三ん者毛か馬は遅り
金装束は鞍かそ打乗り伴なり
弟を面りて海は七八騎ゝ

海をそこ[illegible]をと[illegible]若人付わつて大[illegible]
[illegible]上[illegible]軍しこ[illegible]そ[illegible]人まいそ[illegible]
さの人[illegible]きみ[illegible]と[illegible]人[illegible]そ[illegible]物
[illegible]せん[illegible]人[illegible]扇をあけて[illegible]
[illegible]きい[illegible]そ[illegible]
[illegible]めうん[illegible]
[illegible]若馬の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]を押
[illegible]十六[illegible]七[illegible]
[illegible]小上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]軍場[illegible]
[illegible]
[illegible]

軍をすゝめ、金覆輿そうしに敵一
騎なれども、馬の儀ゝ、岸をあがりつゝ小波の
馬手の小肘を蹴抜き、矢倉をかけ、矢倉
負人と云つゝ、不覚仕る者共、
へとゝて援さりつゝ、ばい力勝よ、神
海を出でく、死生共に、すゝの新の
を思ひ、なゝ、重実うの小波鼻をとゝ横
ゝて思ひ、ゝ、山人一人打ち
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ軍ゝ、ゝ、ゝ

走り、すゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
少[illegible]
平家[illegible]
[illegible]
[illegible]

又勢ひ強く事を十万余騎にして紀
州へ攻よせ一日の内に高い平山さ
つを焼と思ひ二つ三つ一石と破り
ぬ其思ひ寄そうり
小寄和らく自投
と云ふ所の城一石と対陣所の
人々はい殿前の三位通盛卿を大将
にして摂津の国の住人渡辺の授
毛張の法眼を侍大将にして
摂津の師盛義の知

事を成盛卿は十人
ばかり兵を入れ師盛
は十騎ばかり入れ
ばかり死を定めて
陣の中へ寄せ
うり出る二位殿は
軍場に出て
あれ三位の中将
いつ斗れとも思
小の事を面白
事を成盛卿は十人
ばかり兵を入れ師盛
は十騎ばかり入れ
ばかり死を定めて
陣の中へ寄せ
うり出る二位殿は
軍場に出て
あれ三位の中将
いつ斗れとも思
小の事を面白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

計らひて六道の苦しみを作り
いまだ生ぜざる前に作りぬんぬ
生れぬれば苦しみを作りぬ
人間に中ごろ
ちまたの人の
ごとく罪を作り
苦しみを作りぬ
人をそこなひ
人の物をぬすみ

中ごろ
苦を受
法師
をひき
て入
悲しき
四つ
つ山
みん
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ

が志ばらく南ゝ流れを下り船ゝ屋
いくわきの浦より舟へこそ乗り漫
ゝう海上の景色いと清くして称
ゝも月の光いとさやかなる屋
形ゝと思ひ取り志ゝ人会志ゝ人
沖の白砂よりなる千鳥の声ゝ
こゝ力ゝ光りの海辺に流れ寄せ
ゝう小雪ゝ沖ゝ白い波ゝ
形ゝ南無阿弥陀仏の声ゝ最後や
ゝ世集れ衆生法如

未ゝ知れ船ゝ伊勢ゝ志ゝ
ゝ知らずゝ運ゝ
ゝ唱ゝ
ゝ
ゝ

そこなさうな意地をもつた四位さうな松
雄一市子をあまたつれて山まやくと逃
こうれいを持たる人わかめも無を蔵
か入くさう[illegible]ぬさ[illegible]
てこうかさ[illegible]ものよ[illegible]
[illegible]村をうつ[illegible]月ひさ[illegible]
[illegible]の[illegible]所の[illegible]屋のくもてしてこう[illegible]
門[illegible]
かづ[illegible]月[illegible]

食[illegible]加奇あけ[illegible]
二[illegible]白さ袴を[illegible]
[illegible]
き乳人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いてなかう弓引きとい人をたちたもさ
ゝ梅屋ゝん経宗葉ゝを海をたちたもたち
梅花生れりゝ志をとゝえゝ昔代は海
をとゝゝ一こなん色をたちたゝ人をとゝ梅ゝ
もうれゝこ市毛といゝやゝゝ
かゝもゝいゝ美色毎しゝ流よ事ゝれゝて
さ色ゝもうゝさゝもゝゝ人美ゝ梅
ゝ経のゝ色なゝ共一ゝゝ梅ゝ毎ゝゝゝ
ゝ鎧ゝて上ゝ人ゝ乱人の

世ゝゝゝ

[illegible]
山小の寺とよばれ[illegible]教員
[illegible]娘と[illegible]門院と小宰相殿と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]を一日[illegible]初寺
て思ひ[illegible]楽[illegible]を[illegible]
年月[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]と書き[illegible]
[illegible]
て[illegible]禅[illegible]小宰相殿[illegible]
[illegible]
軍の[illegible]
[illegible]と車[illegible]
相[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小寺殿さまと申さるゝ御方
とくよりの御ゆかりの縫物
つゝ前の糸作
こそ御ゆるさる女院
とのゝ御ゆかりの
者共の中へ
世と申奉
わりい御ゆかりん
御屋敷へ

ゆるされ
ゆるされ
御方小寺殿
御ゆるしの
しやうさせ女院
御ゆかりの
そらゆるされ女院
ありとい
いそ織
繁昌
一首の

我意のほそ苔川のまんまを
ながめて社参詣
女院花いけまゐらせ給ふ
人屋敷の名ばかりや
あまりよ人の公つかへ
となりあり如中比小野比小町と
ゆかしい人なりしもの成ん
ま世とくれしうつ人少
人のなをいまゝ三年ばかり比
ゆつくりの名ばかりや名ばかりの人の
名ばかりとして南寺比丘尼春
て往来民よ如何面くしく
ゆ月をとゝ源の露ばかり
らさゝ上ばかりなく風を深く
ゆ聖人業の業深の根葉を摘
てこそ露の命いかゝ人しれ世中
くおもひのあるそとよそや鹿を
ま人こゝろせよ乗くゝ女院

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平家物語巻第九

慶長八年癸卯　七月八日

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]